

中小企業景況調査報告書

令和3年1月～令和3年3月期実績 / 令和3年4月～6月期見通し

令和3年3月

宮崎県商工会連合会

中小企業景況調査要領

この調査は、商工会の経営改善普及事業の指導資料にするため、全国商工会連合会を中心となり、昭和54年度から四半期ごとに全国一斉に実施しているものです。本県分の調査結果は次のとおりです。

1. 調査対象期間

令和3年1月～令和3年3月期を対象とし、調査は令和3年2月19日から3月1日の間に実施しました。なお、令和3年4月～6月期は予測値となります。

2. 調査方法

商工会の経営指導員による訪問面接調査により実施。

3. 対象地区

宮崎市生目、中郷、北郷町、高崎町、すき、国富町、木城町、川南町、諸塚村、日之影町の10商工会地区。

4. 回答企業数

150企業のうち、145企業の回答を得た(有効回答率96.7%)。

業種	調査対象企業数(%:構成比)	有効回答企業数(%:構成比)	有効回答率(%)
製造業	32 21.3%	31 21.4%	96.9%
建設業	24 16.0%	24 16.6%	100.0%
小売業	43 28.7%	40 27.6%	93.0%
サービス業	51 34.0%	50 34.5%	98.0%
合計	150 100.0%	145 100.0%	96.7%

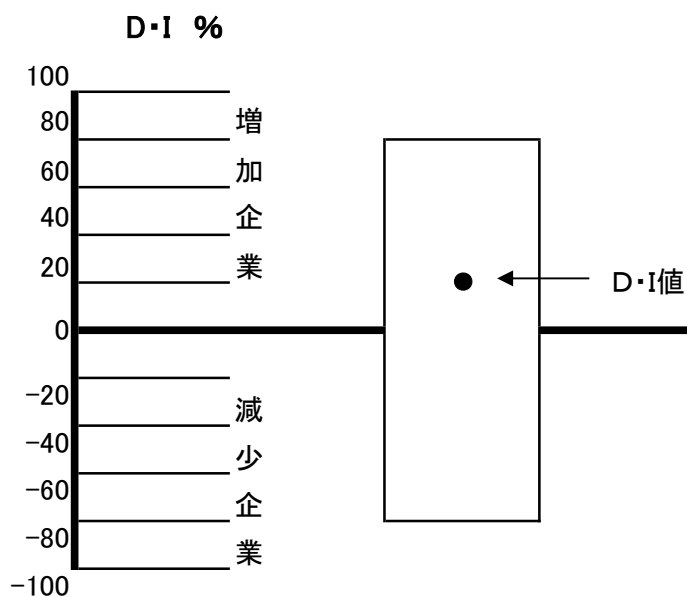
5. その他

(1) D・I

この報告書の中で、「D・I」とある記号は、デフュージョン・インデックス(景気動向指数)の略です。これは企業経営者の景気動向を表わす指標として利用されています。算出方法は、今期と前期、今期と前年同期、あるいは今期と来期「見通し」との比較を行い、増加(上昇・好転)企業の割合から減少(低下・悪化)企業等の割合を差し引いたものです。D・Iがプラスなら強気(楽観)、マイナスなら弱気(悲観) 原材料又は商品の仕入単価の場合はプラスなら上昇気運、マイナスなら低下気運となります。

例えば、売上高で(増加)企業40%、(不変)企業40%、(減少)企業20%の場合、D・Iは40(増加)－20(減少)＝20となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表わしています。

グラフで示すと下のようになります。



(2) 天気図

D・I値をお天気マークで表示

DI値	特に好調 $30 \leq DI$	好 調 $15 \leq DI < 30$	まあまあ $0 \leq DI < 15$	やや不振 $\Delta 15 \leq DI < 0$	不 振 $\Delta 30 \leq DI < \Delta 15$	きわめて不振 $DI \leq \Delta 30$
表示						
	晴	晴時々曇	うす曇	曇	曇時々雨	雨

I 全産業全体の状況

主要景気動向指数(D・I)

項目	令和2年	令和2年	令和2年	令和2年	令和3年	令和3年
	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月
	前年同期	前々々期	前々期	前期	今期	来期見通し
売上高	▲20.2	▲57.8	▲35.3	▲33.7	▲29.6	▲2.6
採算	▲23.0	▲50.2	▲30.7	▲27.7	▲17.2	▲8.4
資金繰り	▲13.3	▲39.0	▲26.4	▲19.7	▲7.7	▲4.0
業況	▲19.0	▲53.8	▲39.1	▲25.4	▲16.0	▲8.4

いずれも前年同期と比較したもの。

<主要景況項目の概況>

◎売上高

今期(令和3年1月～令和3年3月)の売上高のD・Iは、▲29.6ポイントとなって、直前四半期の▲33.7ポイントより改善した。製造業と小売業で改善傾向を示した。来期については▲2.6ポイントと当期よりも改善を見込んでいる。

◎採算

採算のD・Iは、▲17.2ポイントとなっており、直前四半期の▲27.7ポイントより改善している。全ての業種で改善傾向を示した。来期については、▲8.4ポイントと当期より改善を見込んでいる。

◎資金繰り

資金繰りのD・Iは、▲7.7ポイントで、直前四半期から改善した。全ての業種で改善した。来期については、全体で▲4.0ポイントであり、当期より改善を見込んでいる。

◎業況

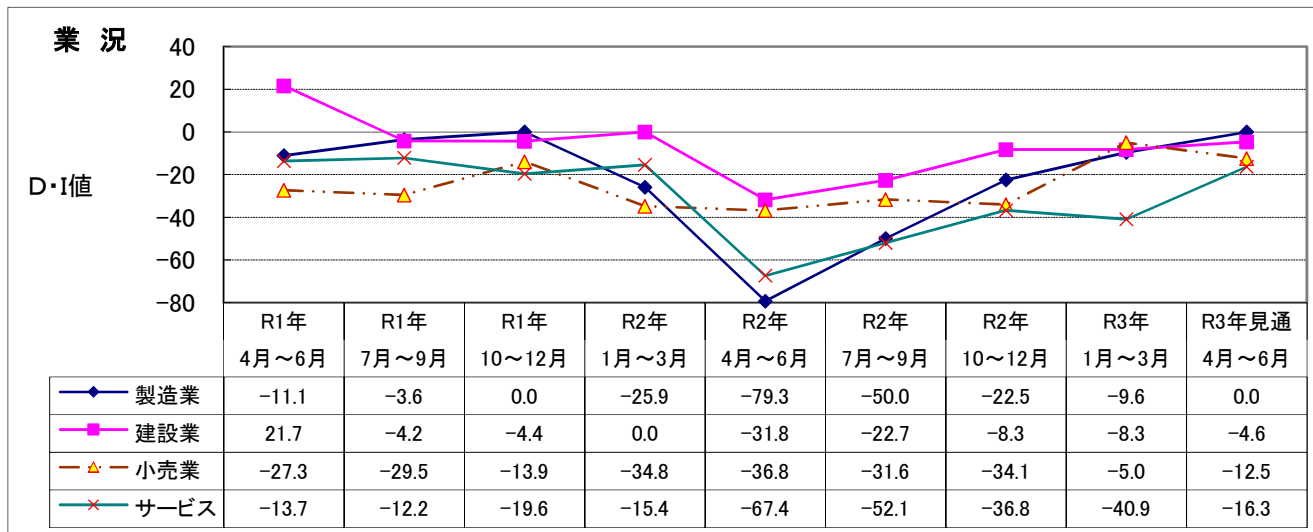
業況のD・Iは、▲16.0ポイントで、前期に比べて改善している。来期は▲8.4ポイントとさらに改善を見込んでいる。

内閣府の令和3年3月発表の月例経済報告では、「景気は、新型コロナウイルス感染症の影響により、依然として厳しい状況にあるなか、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる。先行きについては、感染拡大の防止策を講じつつ、社会経済活動のレベルを引き上げていくなかで、各種政策の効果や海外経済の改善もあって、持ち直しの動きが続くことが期待される。ただし、感染の動向が内外経済に与える影響に十分注意する必要がある。また、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。」としており、景気は回復過程にあるとしている。日本銀行宮崎事務所の3月5日付の宮崎県金融経済概況では、「宮崎県の景気は、このところ足踏み状態となっている。個人消費は緩やかに持ち直しているが、観光は厳しい状況が続く、公共投資は増加している。」としており、基調判断としては、足踏み状態にあるとしている。本調査では、県内中小・小規模事業者の景況感は県独自の緊急事態宣言が2月7日に終了したことにより、前期からは回復しており、来期も改善を見込んでいるところである。

製造業	売上、採算、資金繰りの全てで改善という結果となった。次期の見通しも、売上、採算、資金繰りの全てで改善を見込んでいる。
建設業	完成工事額は悪化し、採算と資金繰りは改善という結果になった。次期の見通しは、完成工事額は改善し、採算は当期と同じ、資金繰りは悪化を見込んでいる。
小売業	売上、採算、資金繰りの全てで改善という結果となった。次期の見通しは、売上は改善し、採算は当期と同じ、資金繰りは悪化を見込んでいる。
サービス業	売上は悪化し、採算と資金繰りは改善という結果となった。次期の見通しは、売上、採算、資金繰りの全てで改善を見込んでいる。

＜経営上の問題点について＞

製造業、建設業、小売業、サービス業の全ての業種で、「需要の停滞」が1位となった。新型コロナウイルス感染症の拡大で、調査対象期間中の1月7日に宮崎県独自の緊急事態宣言が出され、2月7日に終了が宣言されるまでの間、飲食店への時短要請、会食やイベントの制限などの行動要請が行われた。この影響が大きく表れている。2月中旬以降、感染状況は落ち着いてきており、これを受けて、次期の業況は回復を見込んでいるところであるが、宮崎県外での新型コロナウイルス感染症変異株の広がりなど予断を許さない状況が続いている。

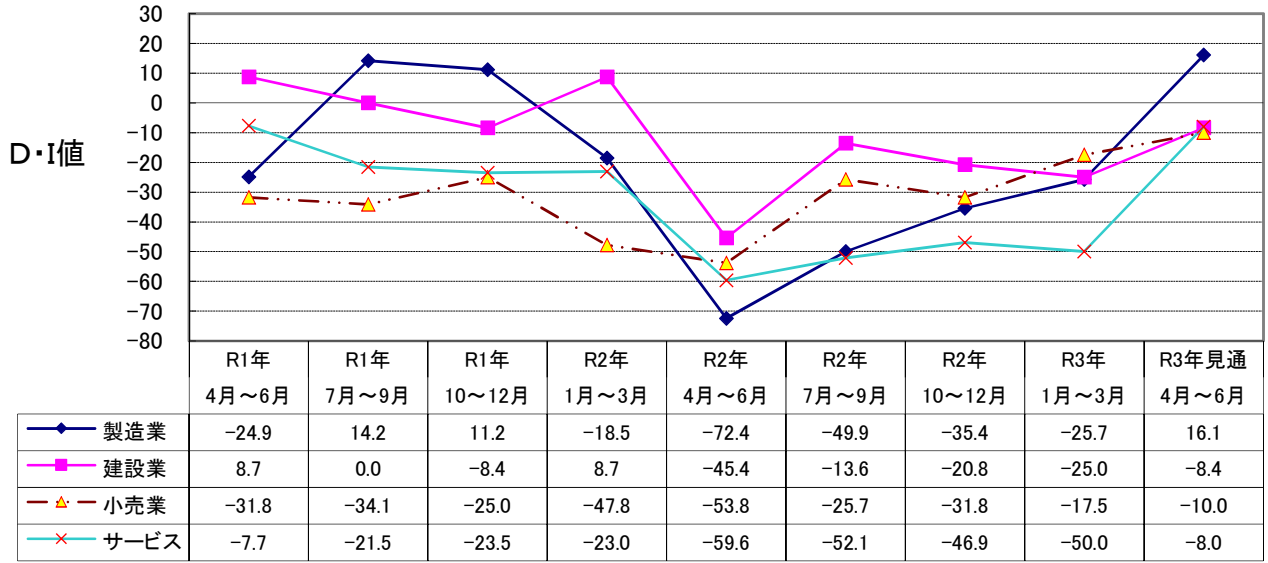


(業況天気図)

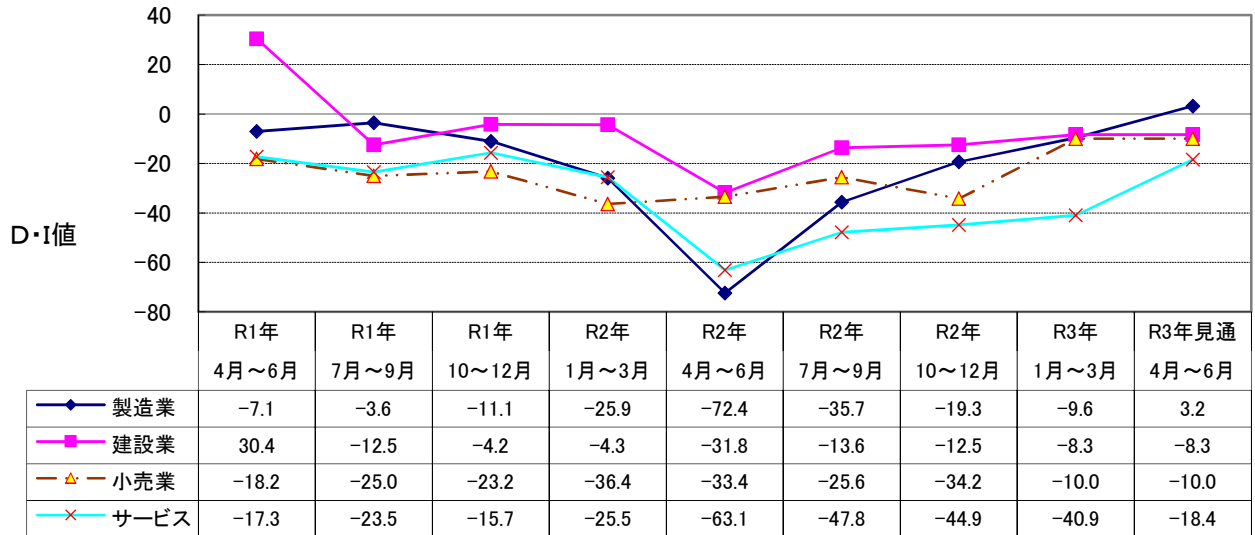
業種別	製造業	建設業	小売業	サービス業
1月から3月 実績				
D-I値	▲ 9.6	▲ 8.3	▲ 5.0	▲ 40.9
4月から6月 見通し				
D-I値	0.0	▲ 4.6	▲ 12.5	▲ 16.3
傾向	→	→	→	→

(注) 好転 ↗ 横ばい → 悪化 ↘

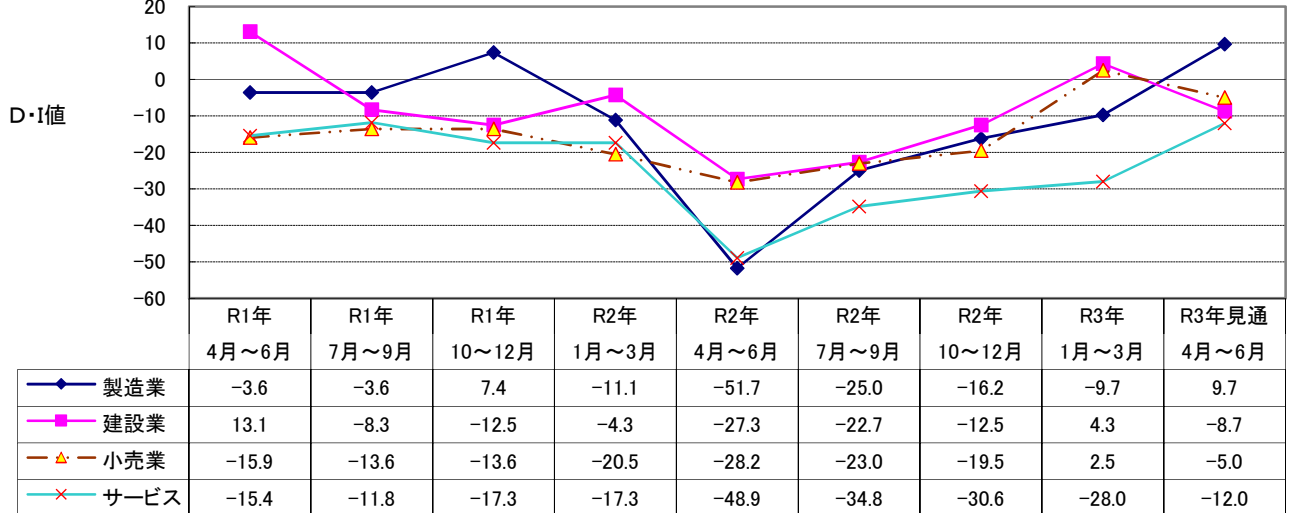
売上額(加工・完成)の推移



採算の推移(経常利益)





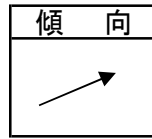
資金繰り



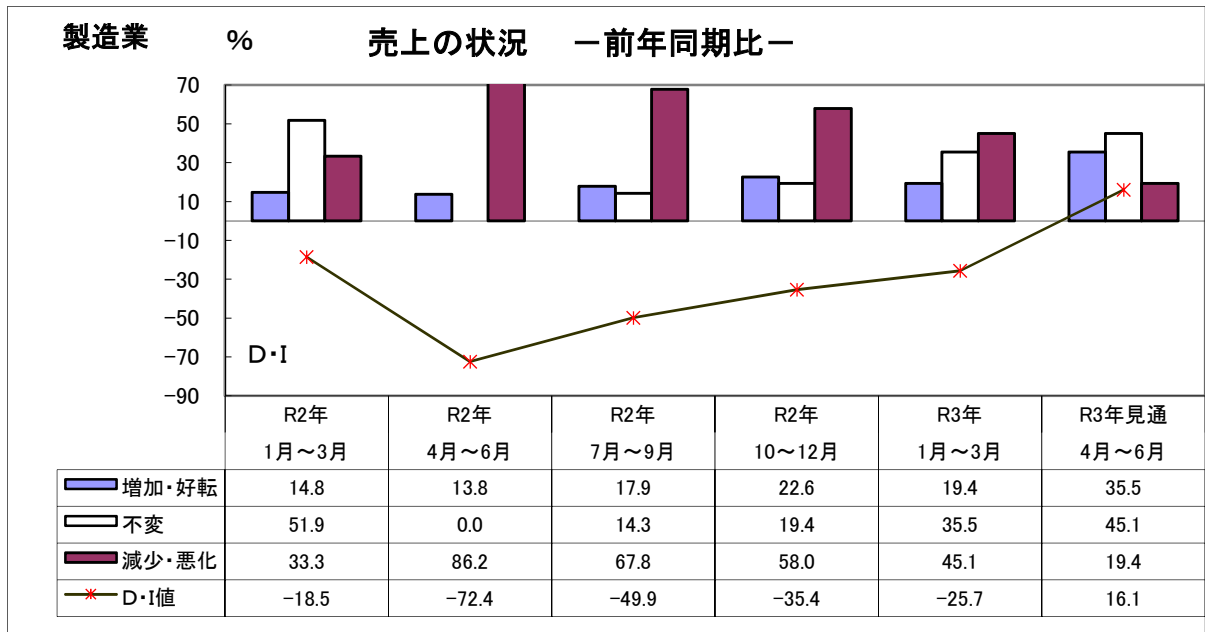
II 製造業の景況

(1) 売上(加工)額の推移



3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
	
曇時々雨	晴時々曇
▲ 25.7	16.1

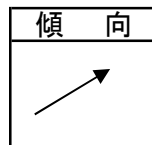


当期の売上高のD・Iは、「増加・好転」とする企業が減少したが、「減少・悪化」の企業も減少したため、D・Iは-25.7ポイントと、前期と比べて改善した。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期から大きく改善する見込みとなっている。

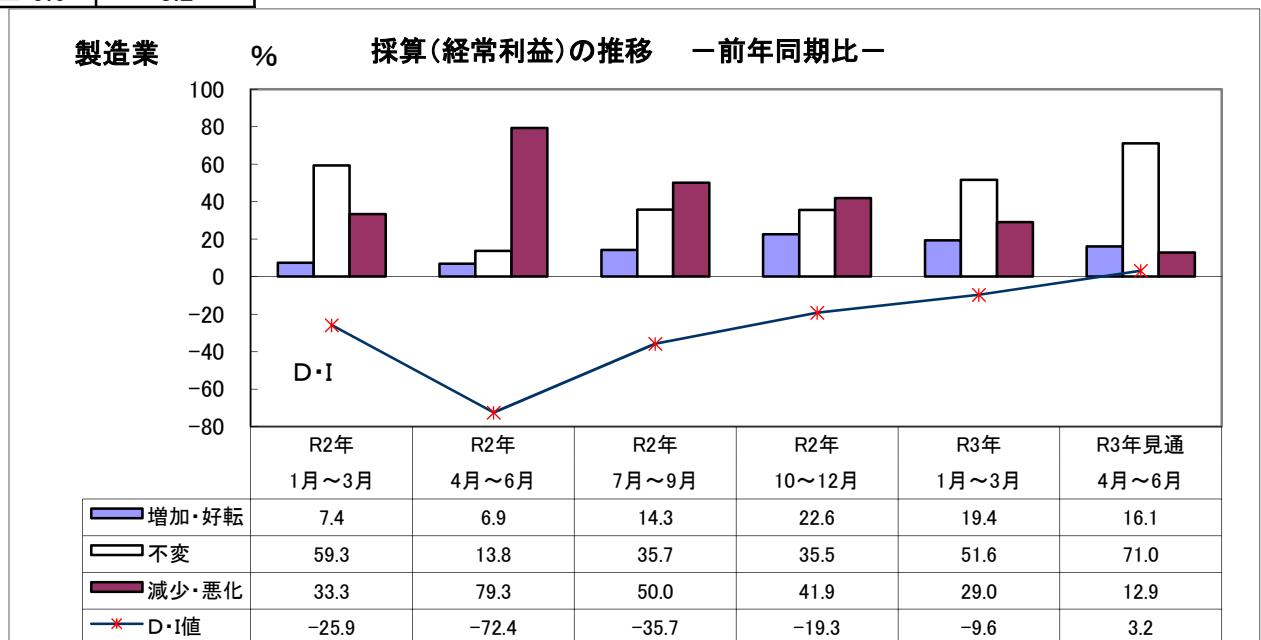


(2) 採算(経常利益)の推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
	
曇	うす曇
▲ 9.6	3.2

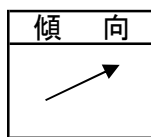


当期の採算のD・Iは、-9.6ポイントで、直前四半期の数値から改善した。「増加・好転」の企業が減少したが、「減少・悪化」の企業も減少したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業は減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、当期からは改善する予想となっている。

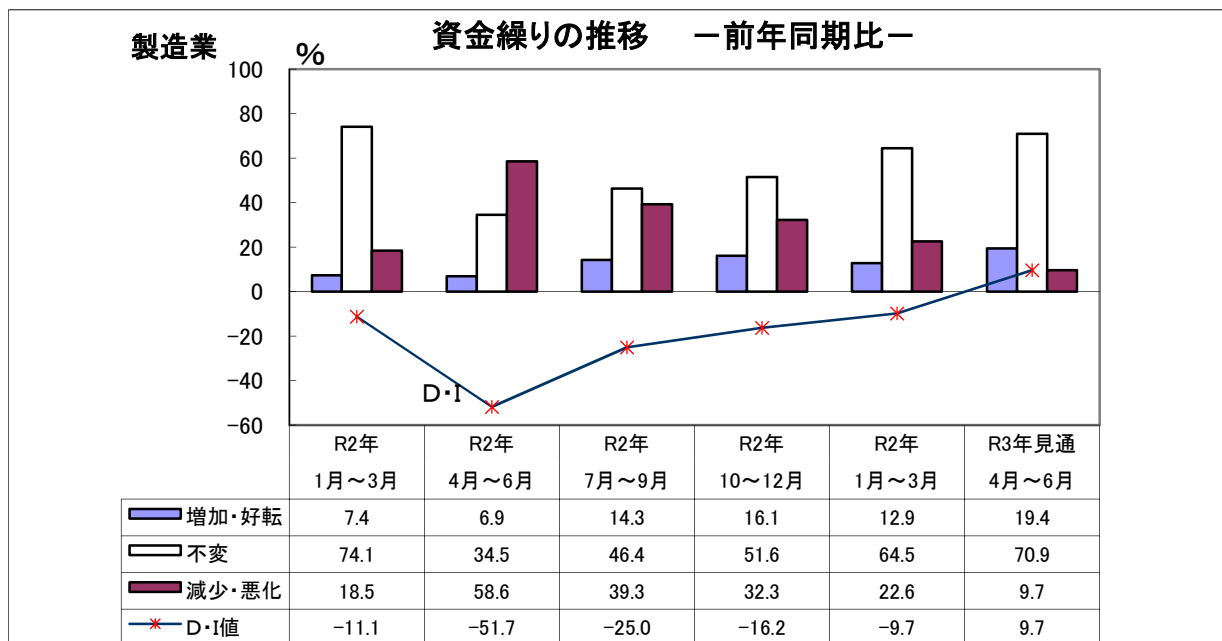


(3) 資金繰りの推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
曇	うす曇
▲ 9.7	9.7

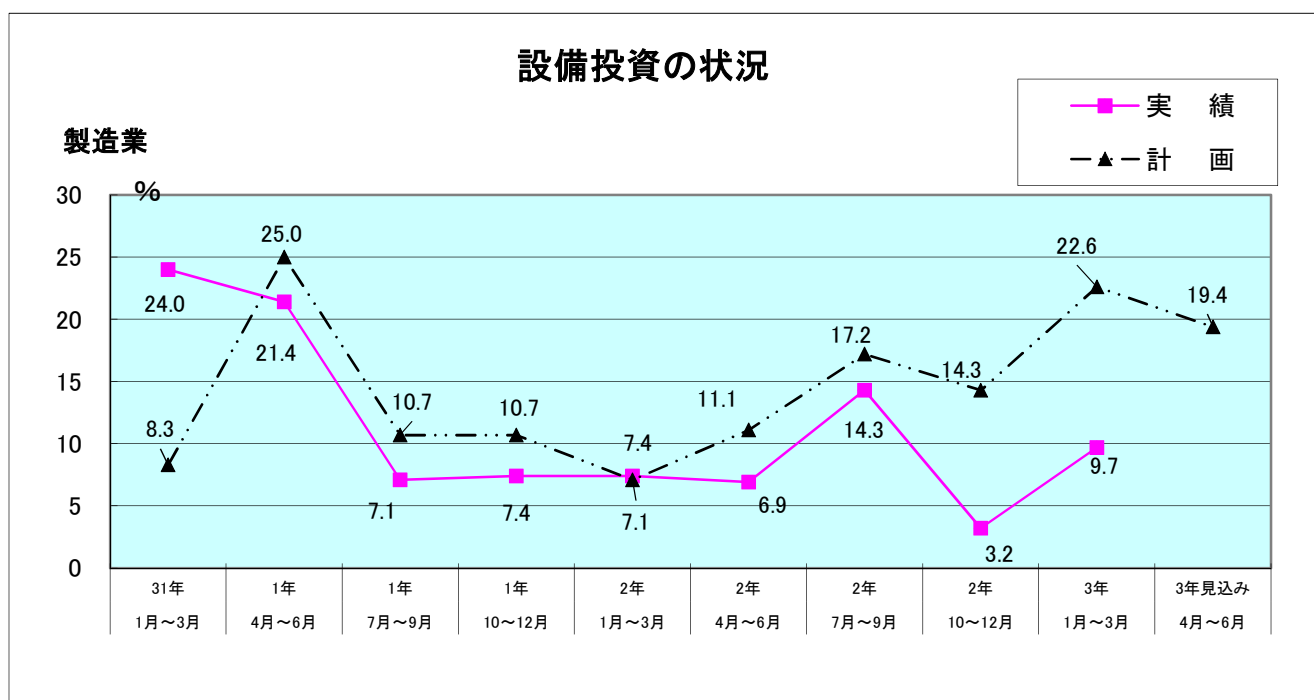


当期の資金繰りのD・Iは、-9.7ポイントとなり、前期より改善した。「増加・好転」の企業は減少したが、「減少・悪化」の企業も減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善を見込んでいる。



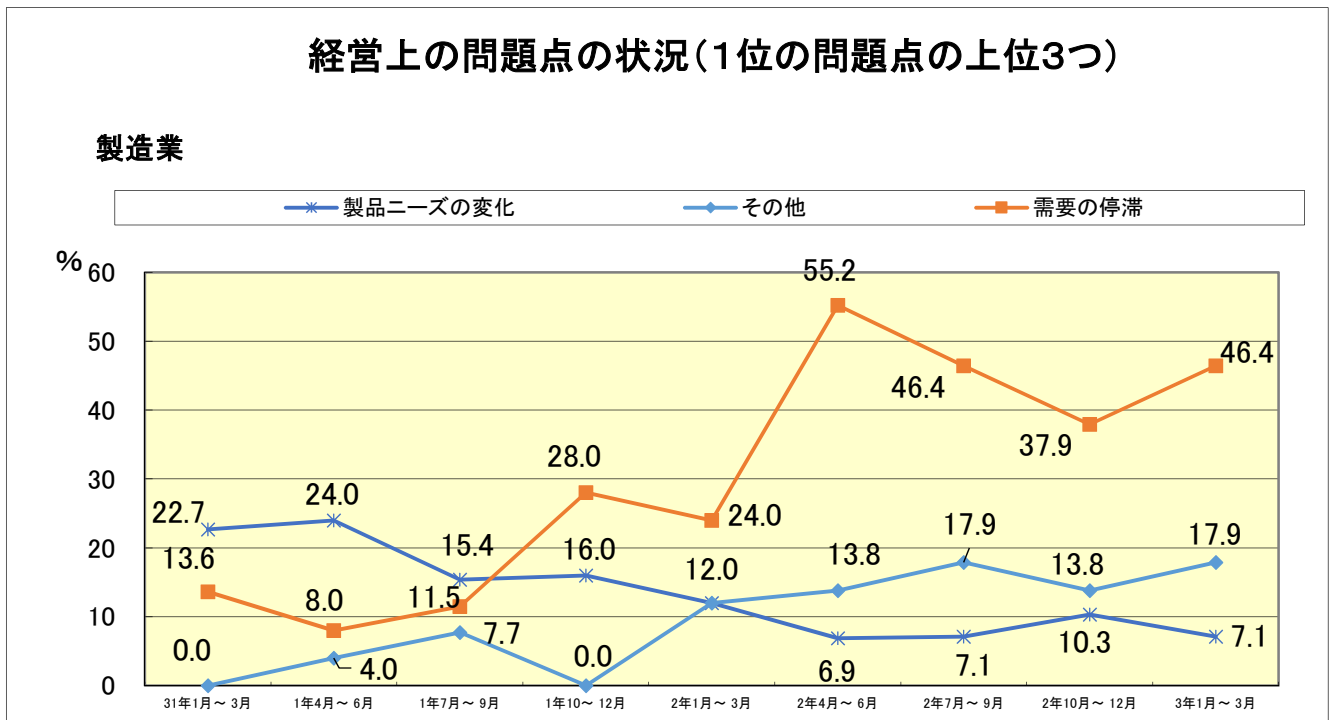
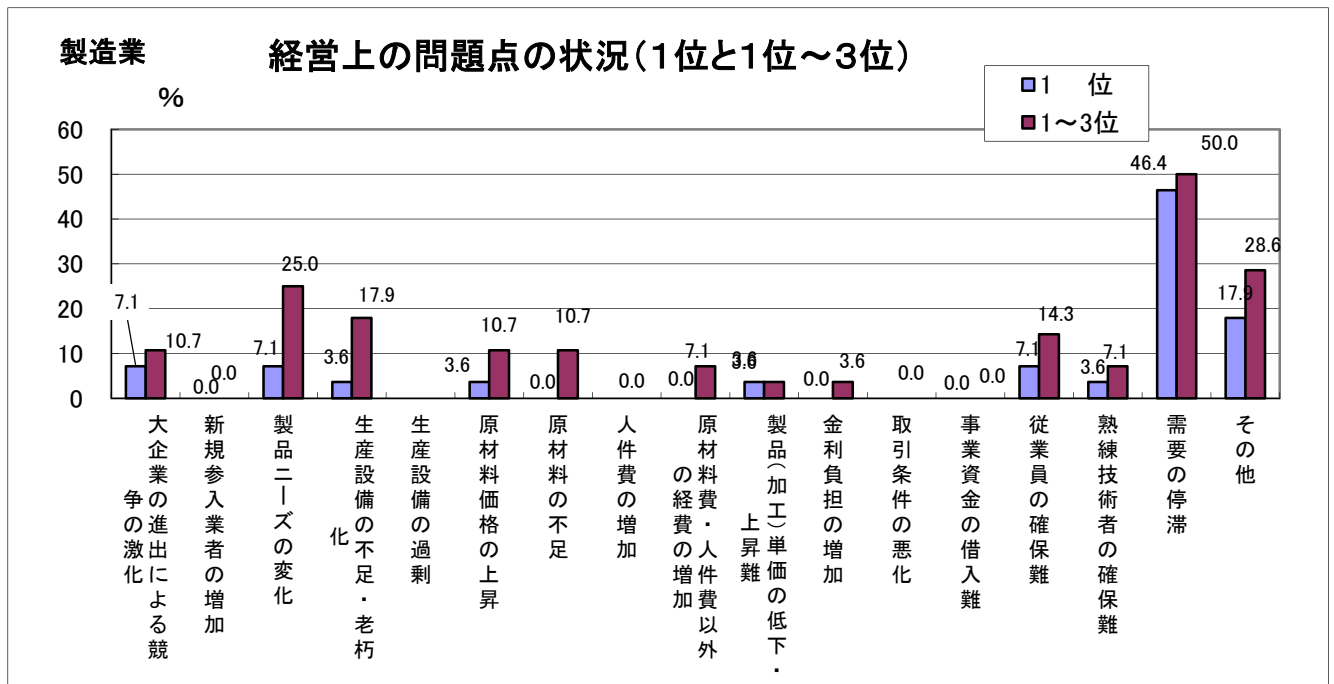
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は22.6%の企業が実施の意向を見せていたが、実績は9.7%となり、実績は計画を下回った。次の四半期は19.4%の企業が計画している。内容は生産設備、工場建物、車両・運搬具等となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点について回答を求めたところ、(1位グループ)の合計で多かったのは、1位が「需要の停滞」となり、2位が「その他」、3位が同率で「製品ニーズの変化」、「大企業の進出による競争の激化」、「従業員の確保難」となっている。(1位～3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「その他」、3位が「製品ニーズの変化」となった。今回の調査でも1位グループ、1位～3位グループともに「需要の停滞」が1位となった。



Ⅲ 建設業の景況

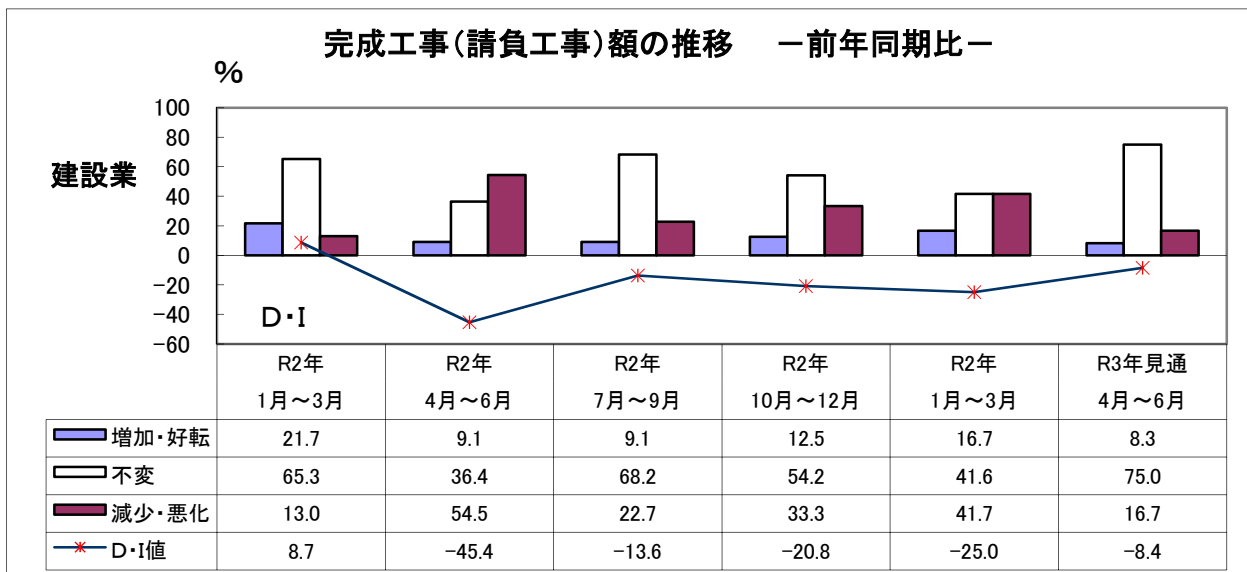
(1) 完成工事額の推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
曇時々雨	曇
▲ 25.0	▲ 8.4

傾向

当期の完成工事額のD・Iは、-25.0ポイントとなり、前期から悪化した。「増加・好転」とする企業が増加したが、「減少・悪化」とする企業も増加したためである。

次の四半期については、「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、完成工事額のD・Iは、当期より改善し、-8.4ポイントとなっている。



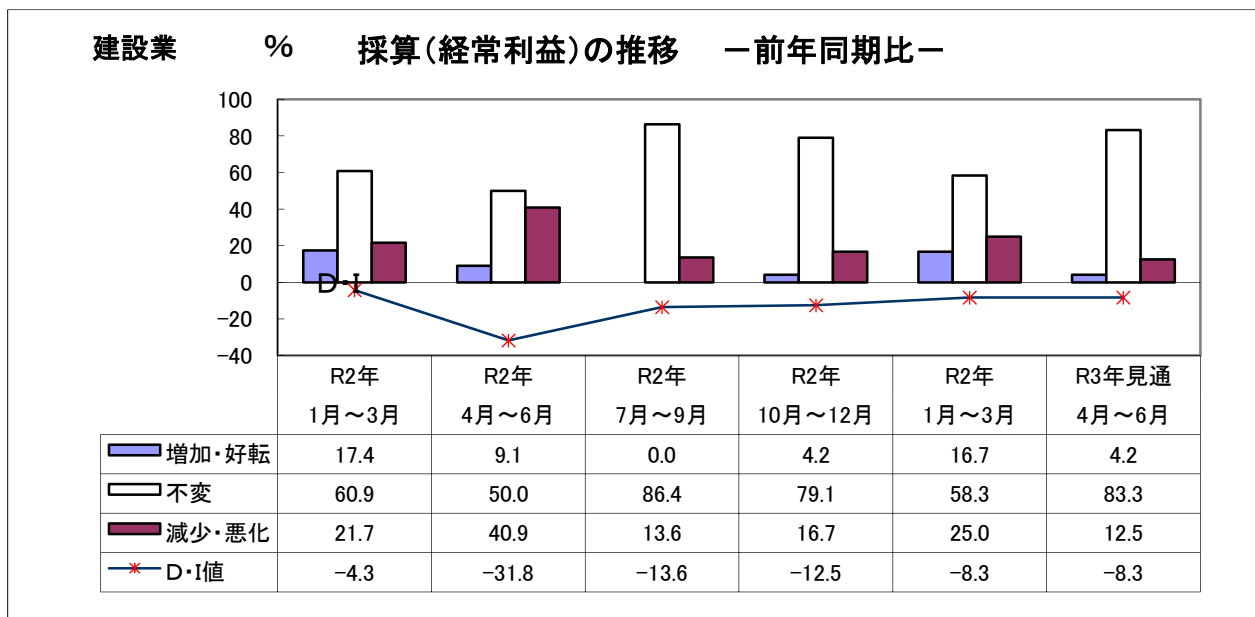
(2) 採算(経常利益)の推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
曇	曇
▲ 8.3	▲ 8.3

傾向

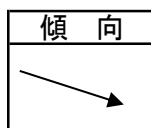
当期の採算のD・Iは、-8.3ポイントであった。前期から改善した。「減少・悪化」とする企業は増加したが、「増加・好転」とする企業も増加したためである。

次の四半期は、「増加・好転」とする企業は減少するが、「減少・悪化」とする企業も減少するため、D・Iは、当期と同じ-8.3ポイントとなっている。

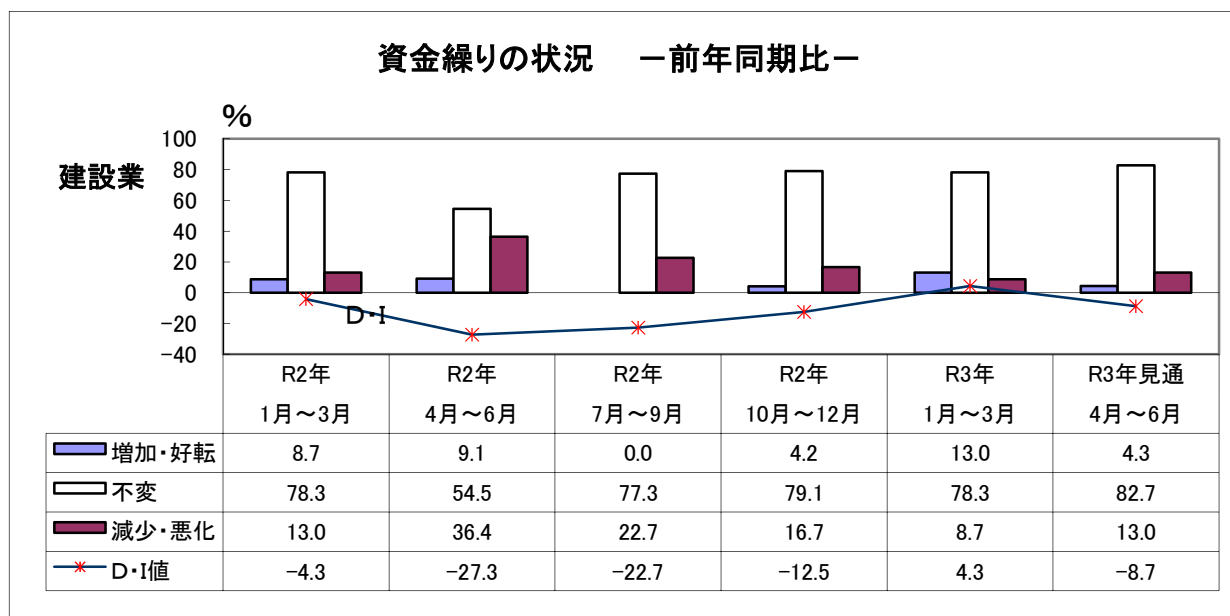


(3) 資金繰りの推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
うす曇	曇
4.3	▲ 8.7

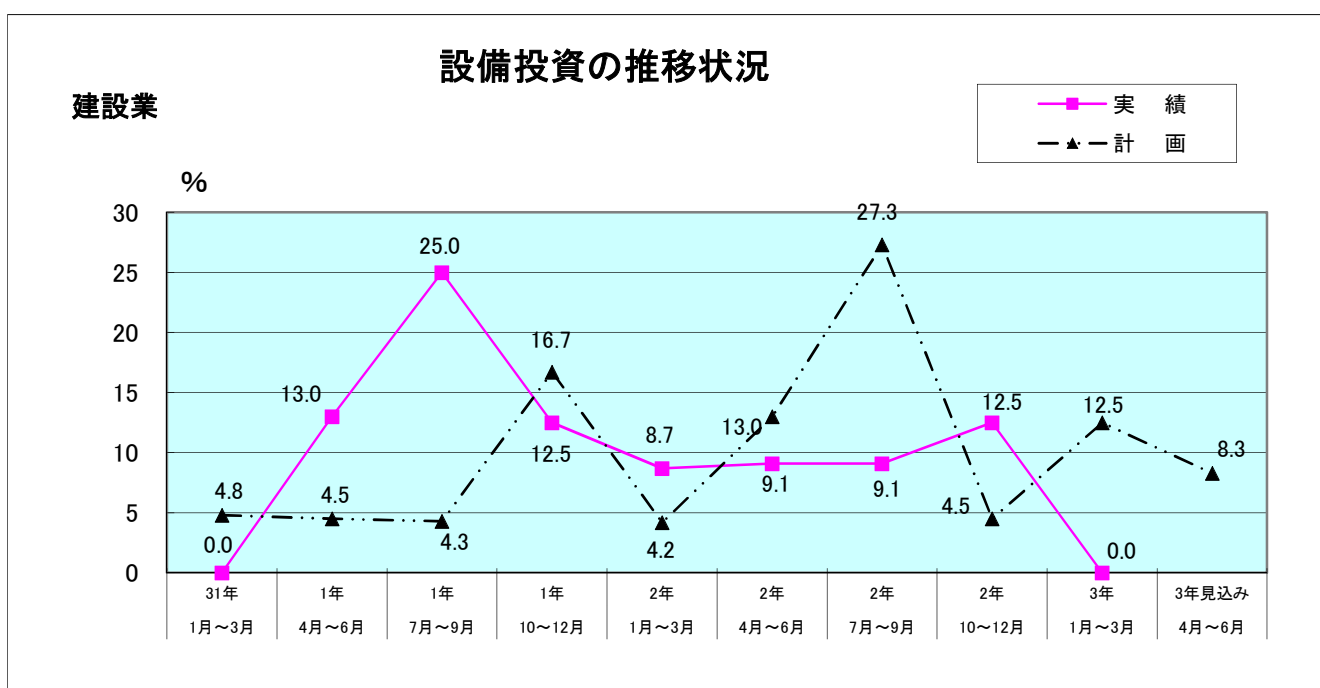


資金繰りのD・Iは4.3ポイントと、前期より改善する結果となった。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次の四半期については、「増加・好転」とする企業が減少し、「減少・悪化」とする企業が増加するため、D・Iは、-8.7ポイントと当期より悪化する。



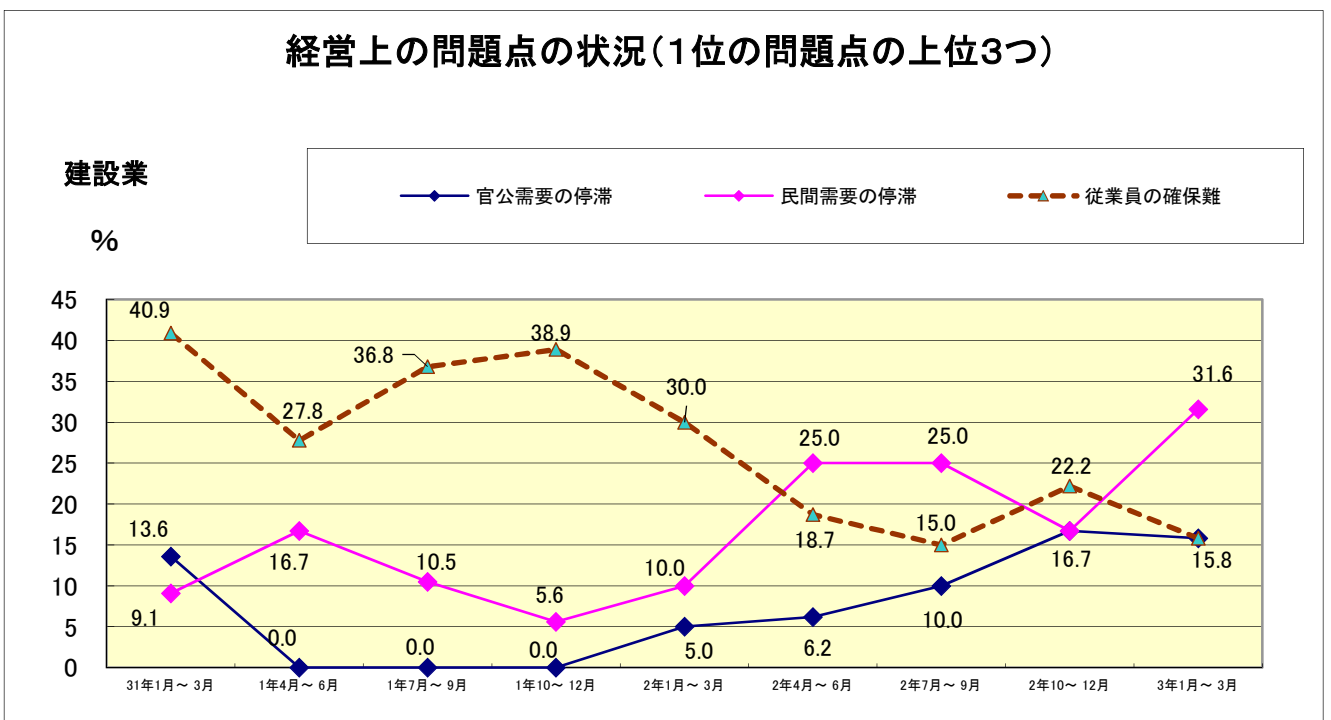
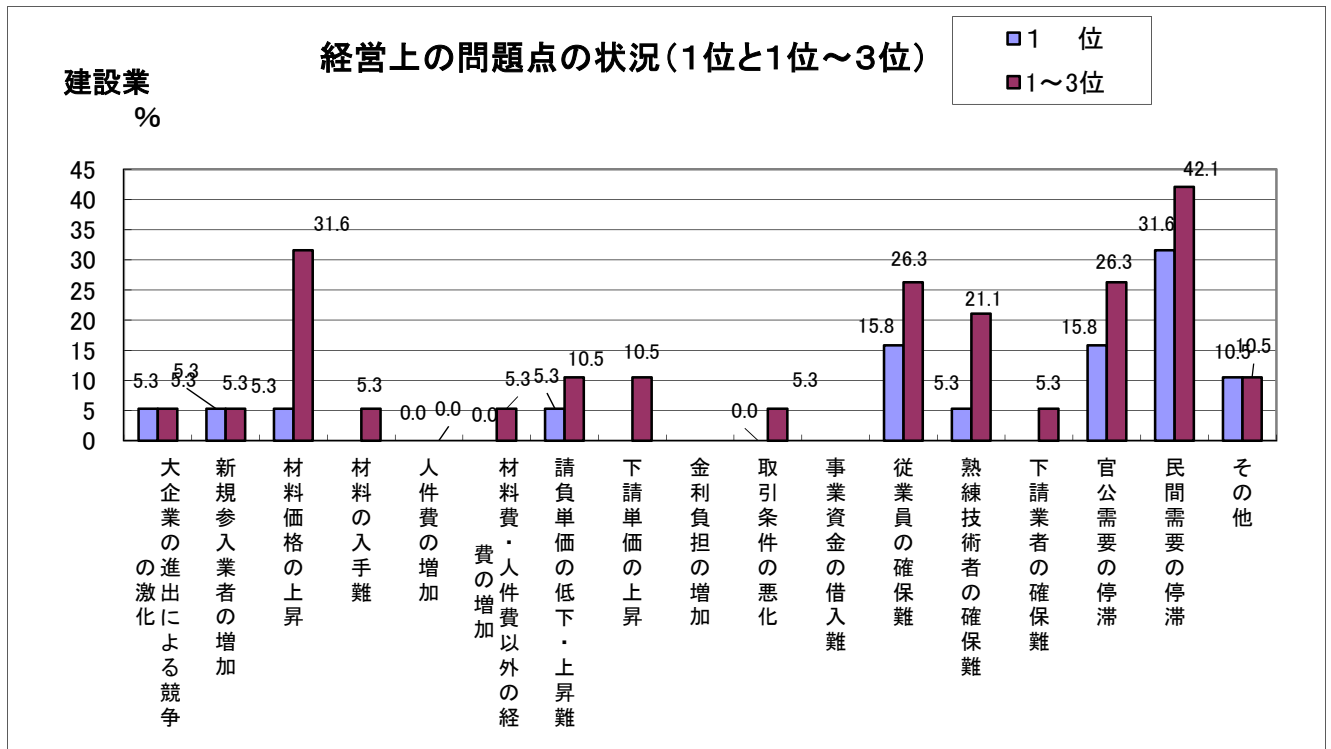
(4) 設備投資の推移

当期の設備投資計画は12.5%であったが、実際に投資を行った企業は0.0%であった。次の四半期に設備投資を計画している企業は8.3%という結果となっている。投資対象は建物、その他となっている。





(5) 経営上の問題点

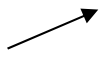
経営上の問題点について、(1位グループ)で回答が多かったのは、1位が「民間需要の停滞」、2位が同率で、「従業員の確保難」、「官公需要の停滞」となった。(1位～3位グループ)では、1位が「民間需要の停滞」、2位が「材料価格の上昇」、3位が同率で、「官公需要の停滞」、「従業員の確保難」であった。建設業においては、「民間需要の停滞」が1位となっている。



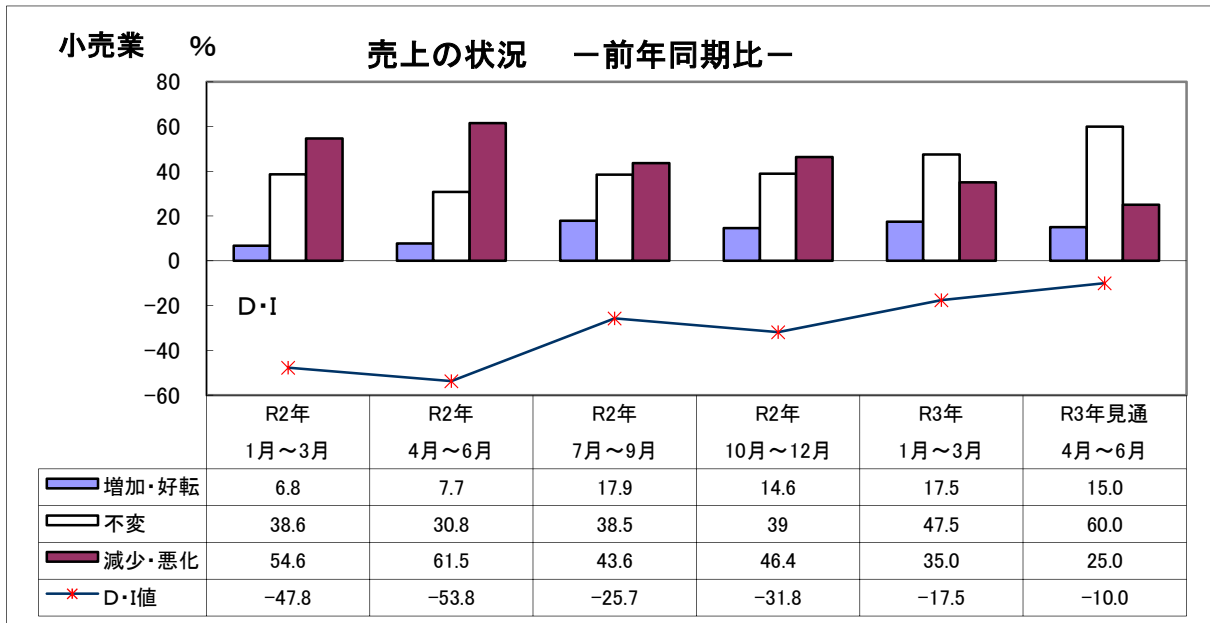
IV 小売業の景況

(1) 売上額の推移


3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
	
曇時々雨	曇
▲ 17.5	▲ 10.0

傾 向


当期の売上のD・Iは-17.5ポイントで、直前期の-31.8ポイントより改善した。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。客数、客単価で改善している。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」の企業も減少するため、D・Iは当期より改善を見込んでいる。

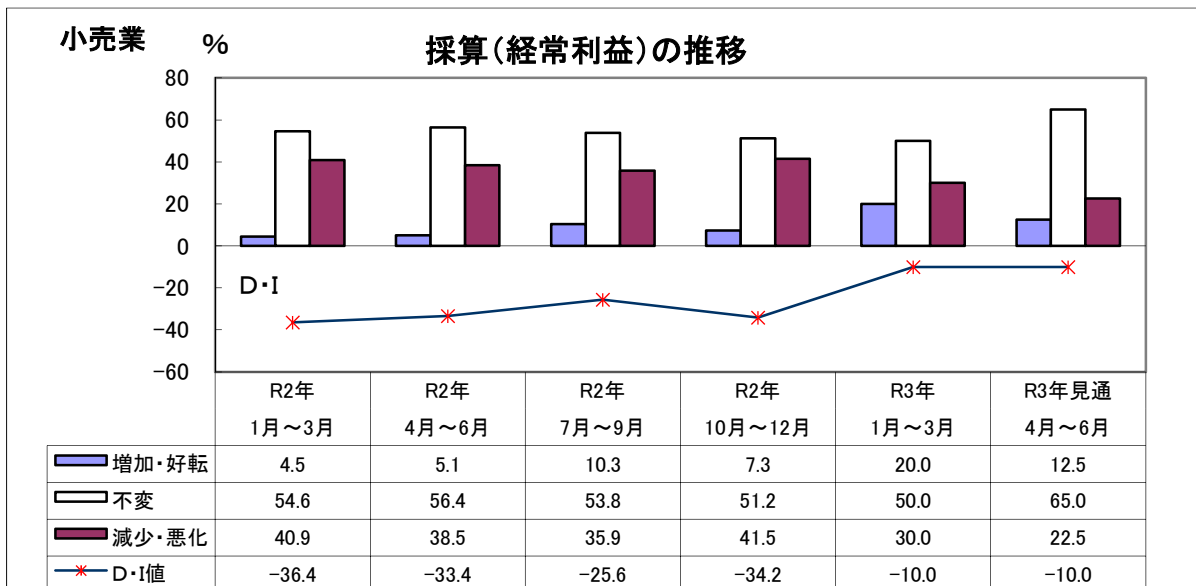


(2) 採算(経常利益)の推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
	
曇	曇
▲ 10.0	▲ 10.0

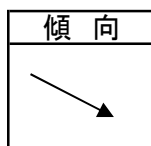
傾 向


当期の採算のD・Iは-10.0ポイントで、前期より改善した。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が減少するが、「減少・悪化」とする企業も減少するため、D・Iは当期と同じ-10.0となっている。

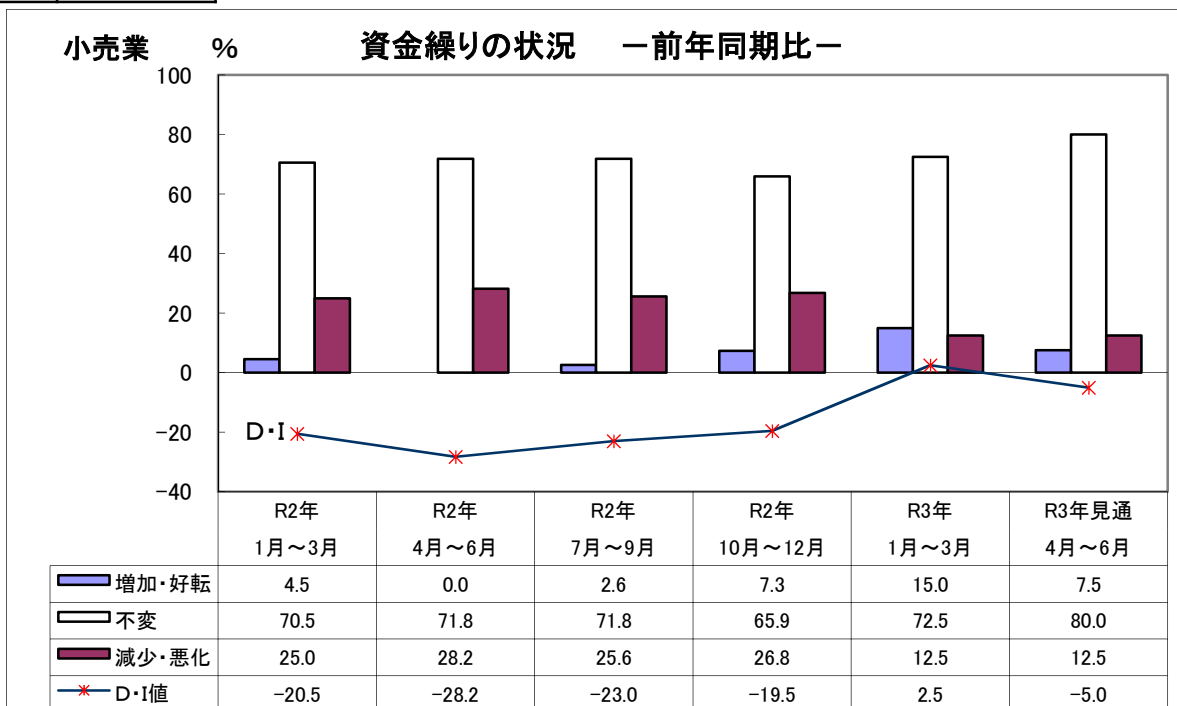


(3) 資金繰りの推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
うす曇	曇
2.5	▲ 5.0

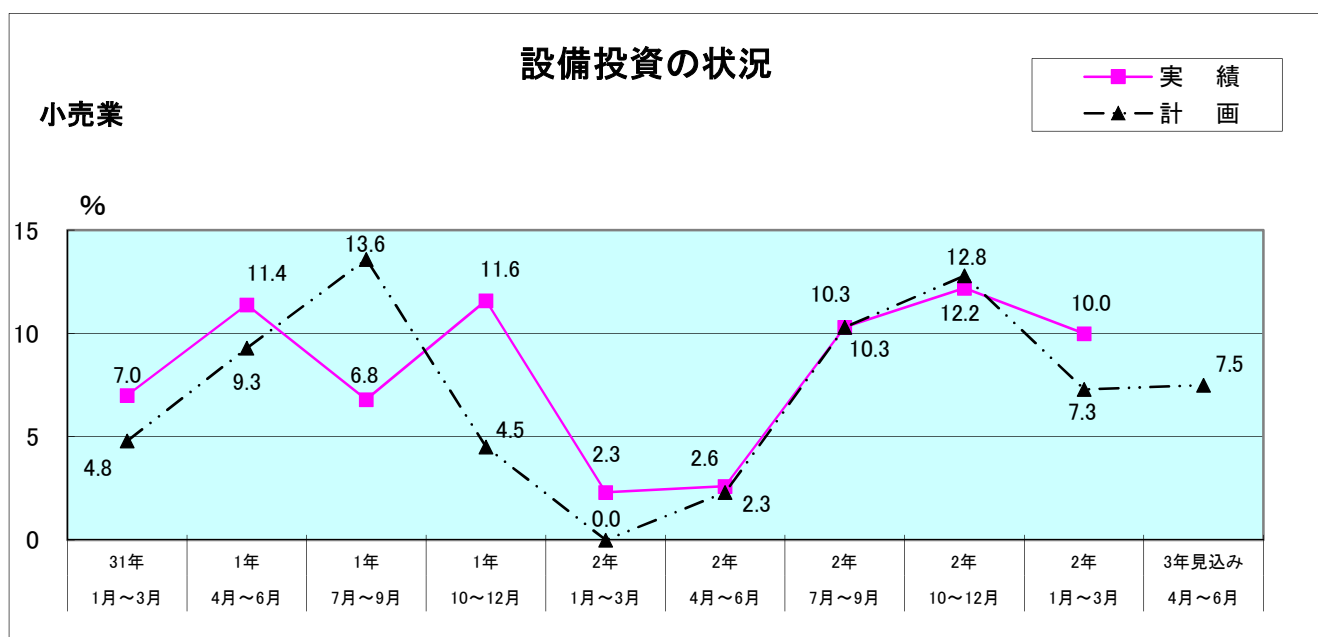


当期の資金繰りのD・Iは2.5ポイントで、直前期から改善した。「増加・好転」とする企業が増加し、「減少・悪化」とする企業が減少したためである。次期四半期は「減少・悪化」の企業は当期と同じであるが、「増加・好転」の企業が減少するため、D・Iは当期より悪化を見込んでいる。



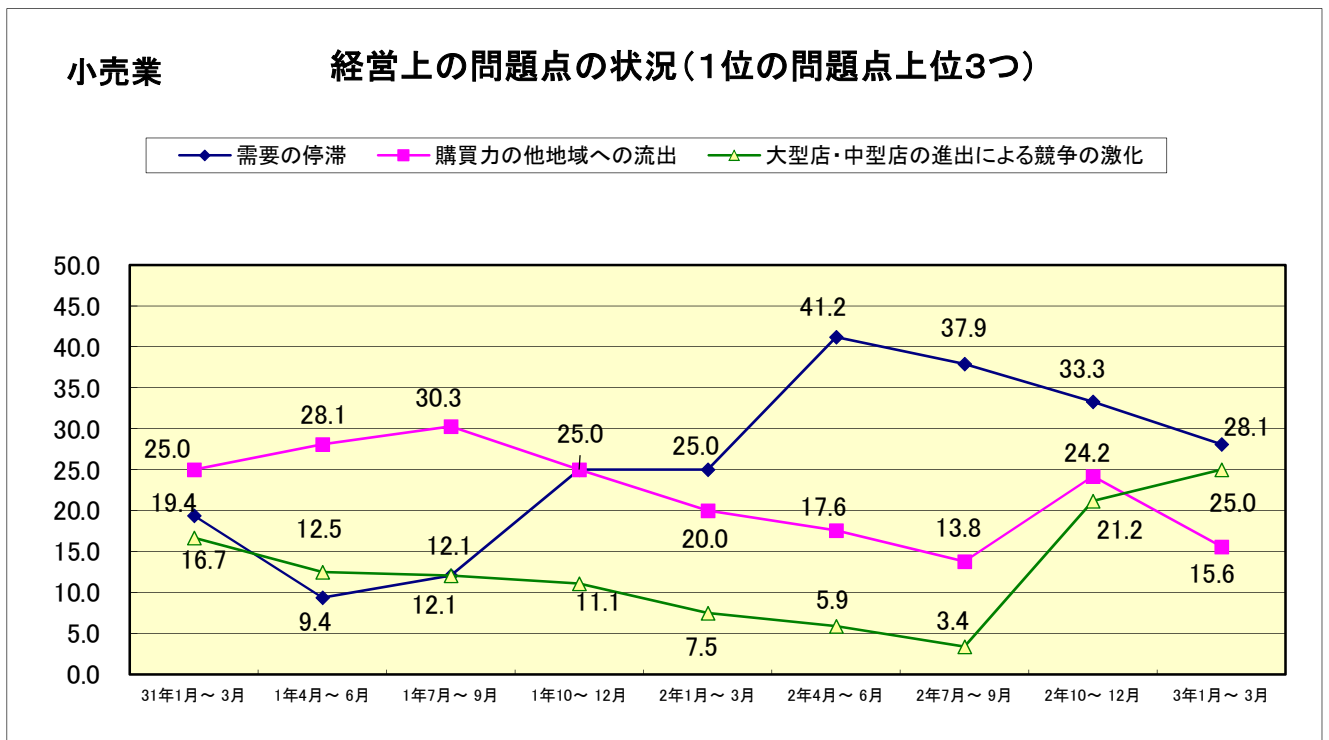
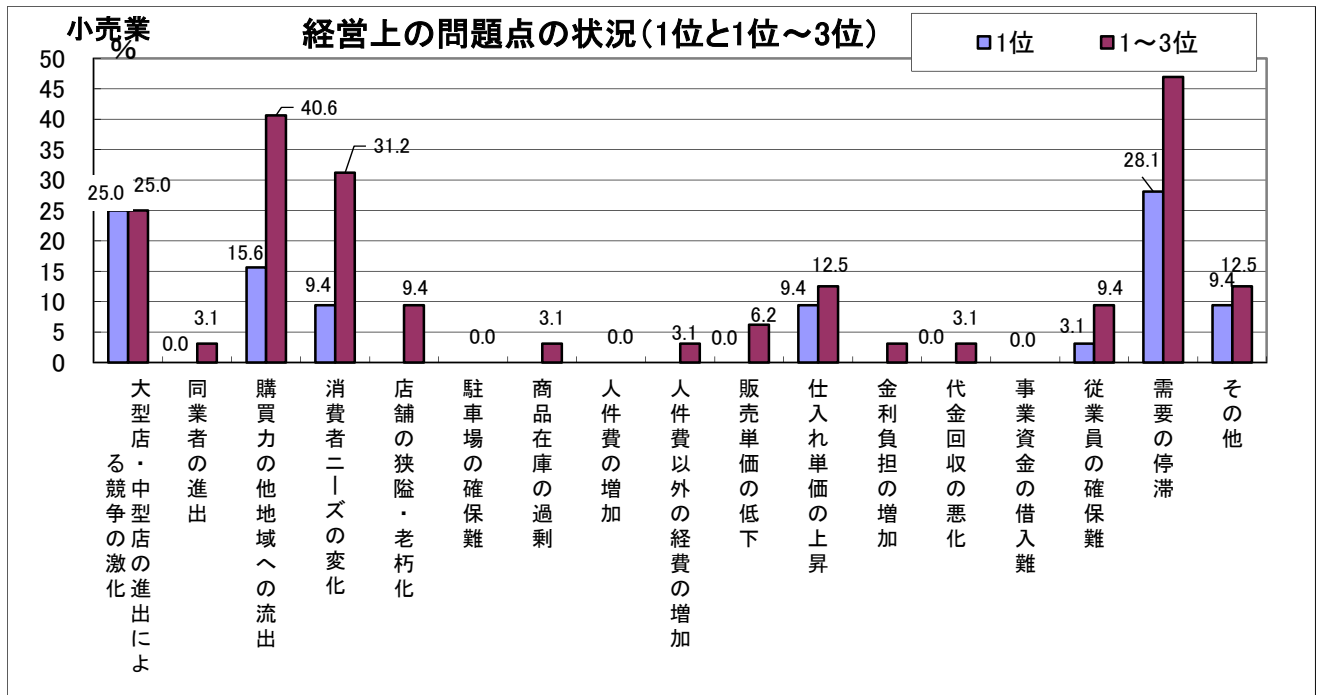
(4) 設備投資の推移

設備投資は7.3%の企業が計画し、実際に実施した企業は10.0%となった。投資対象はOA機器等となっている。次の四半期の見通しは、設備投資を計画している企業は7.5%となっている。





(5) 経営上の問題点

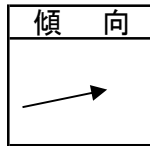
経営上の問題点について、回答が多かったのは、(1位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「大型店・中型店の進出による競争の激化」、3位が「購買力の他地域への流出」であった。(1位から3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「購買力の他地域への流出」、3位が「消費者ニーズの変化」、であった。今回も新型コロナウイルス感染症の影響による「需要の停滞」が圧倒的な1位となった。



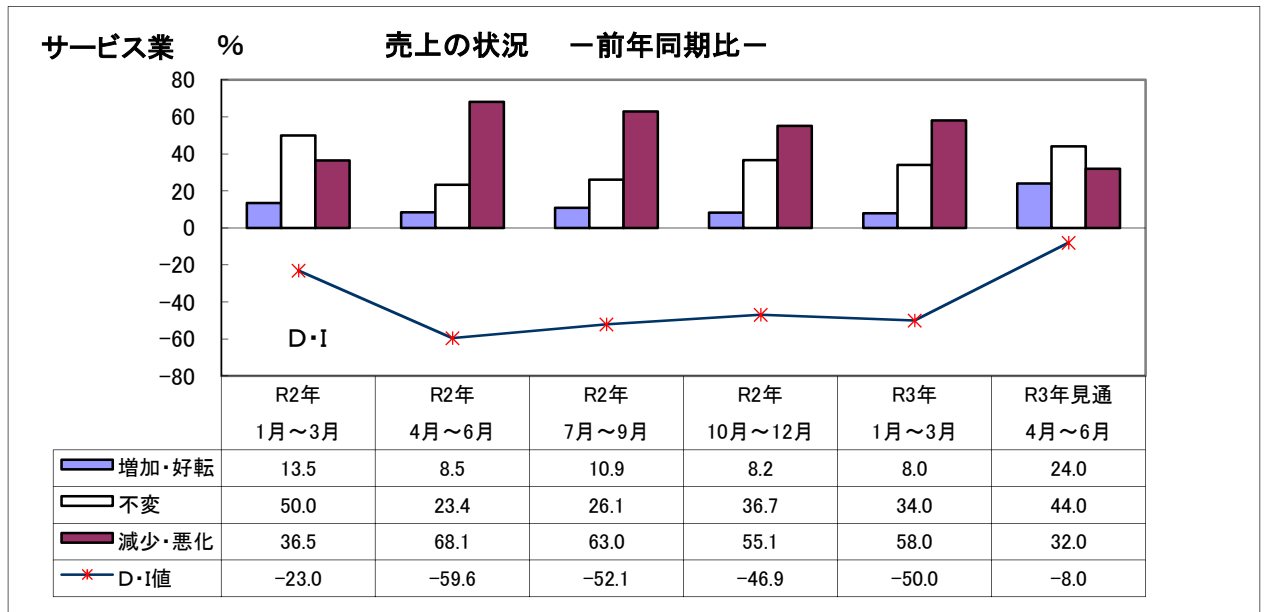
V サービス業の景況

(1) 売上額の推移



3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
	
雨	曇
▲ 50.0	▲ 8.0

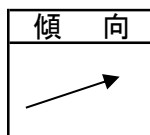


当期の売上のD・Iは、-50.0ポイントと前期より悪化した。「増加・好転」の企業は前期とほぼ横ばいであったが、「減少・悪化」の企業が増加したためである。利用客数が悪化している。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは水面下であるが当期より大きく改善する。

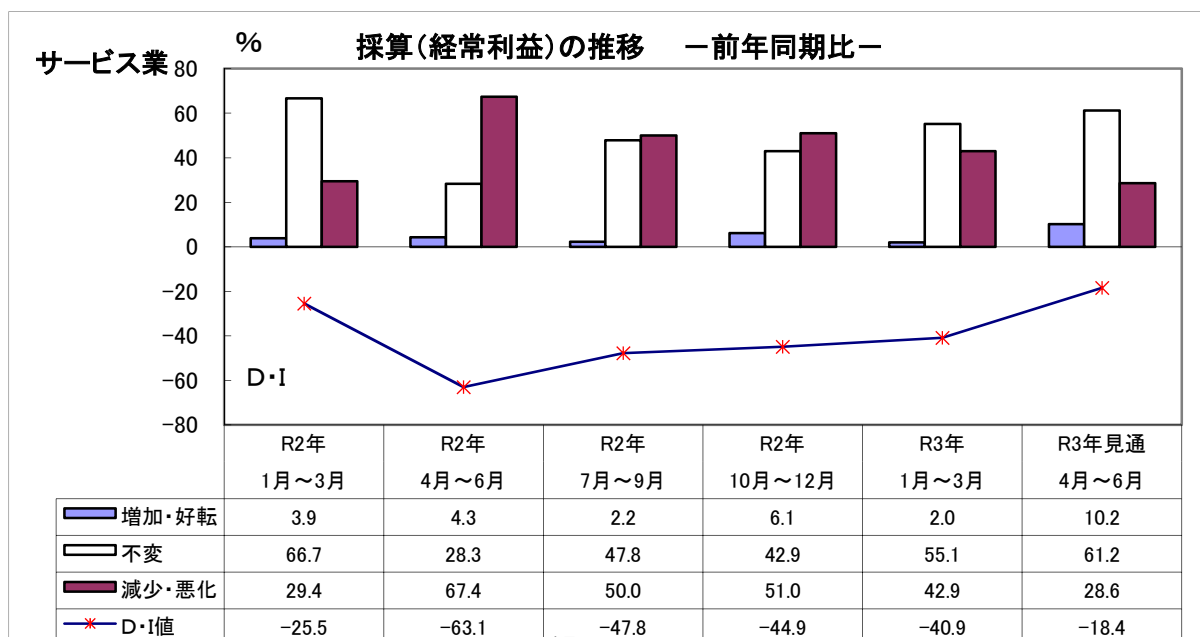


(2) 採算(経常利益)の推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
	
雨	曇時々雨
▲ 40.9	▲ 18.4

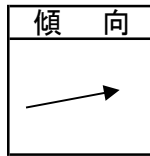


当期の採算のD・Iは、-40.9ポイントで、前期より改善した。「増加・好転」の企業は減少したが、「減少・悪化」の企業も減少したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、D・Iは当期より改善する見込みとなっている。

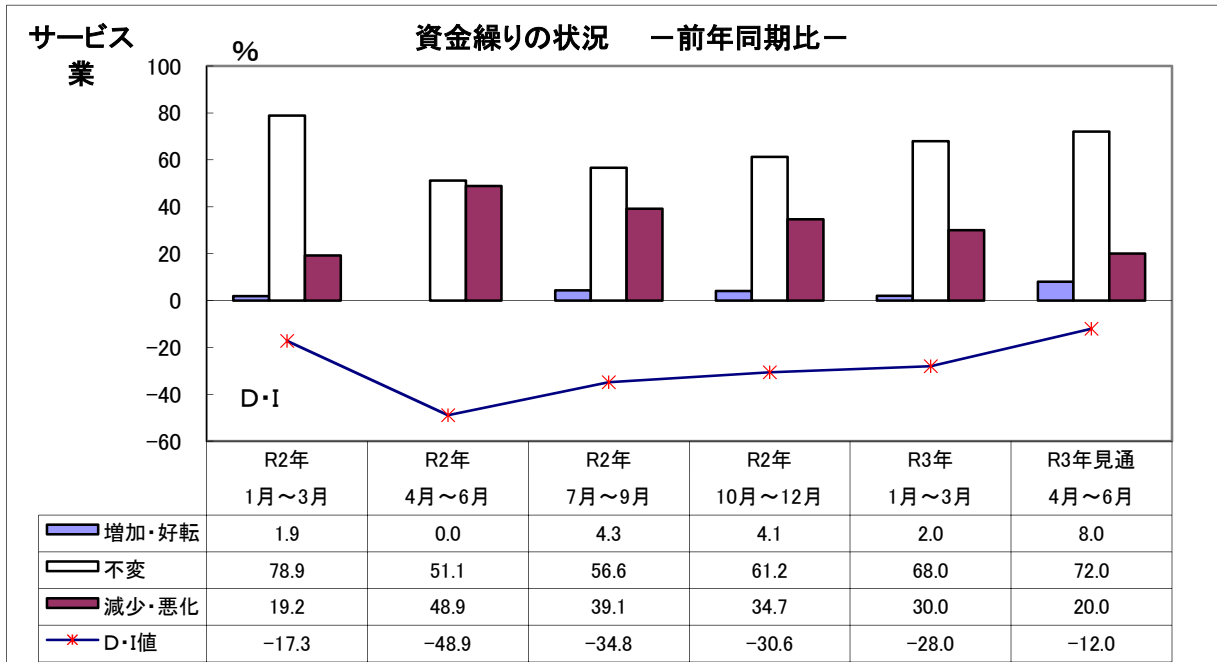


(3) 資金繰りの推移

3年1月～3月 (実績)	3年4月～6月 (見通し)
曇時々雨	曇
▲ 28.0	▲ 12.0

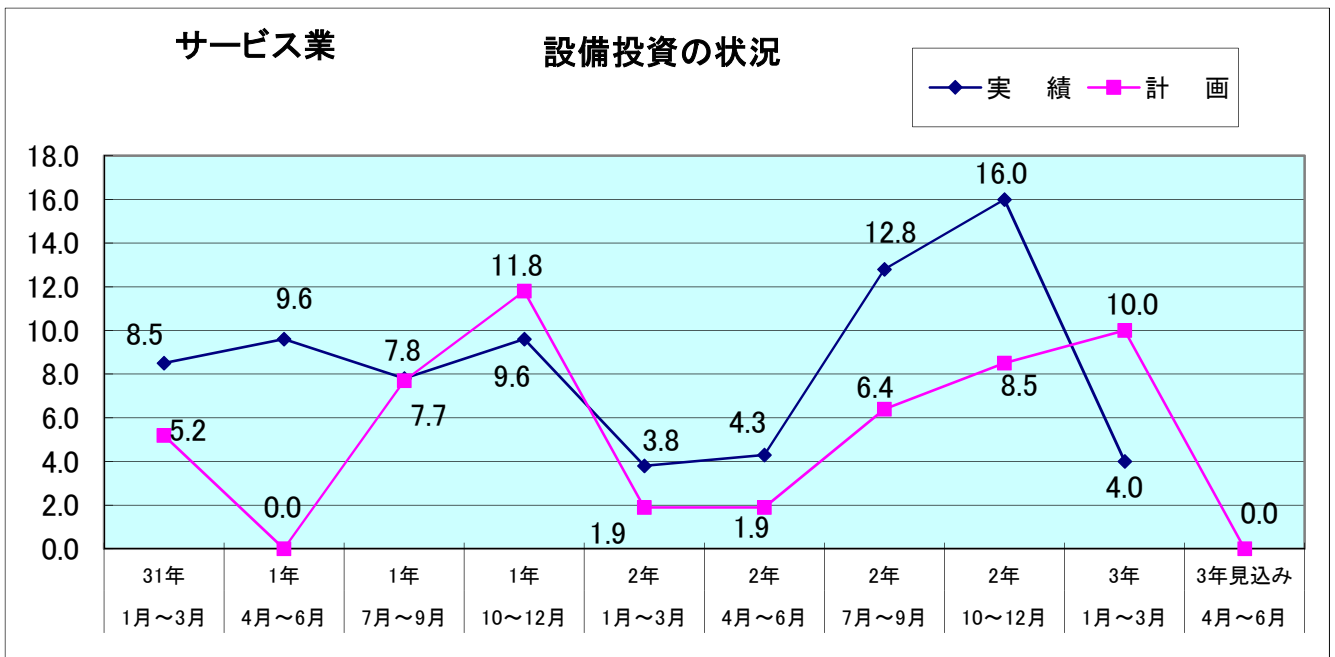


当期の資金繰りのD・Iは、-28.0ポイントと前期から改善した。「増加・好転」とする企業は減少したが、「減少・悪化」とする企業も減少したためである。次の四半期は「増加・好転」の企業が増加し、「減少・悪化」の企業が減少するため、資金繰りのD・Iは、当期より改善する。



(4) 設備投資の推移

当期は、設備投資を計画していた企業は10.0%であったが、実施したのは計画を下回る4.0%の企業であった。内容は建物、その他となっている。次の四半期に設備投資を計画している企業は、0.0%との結果となっている。



(5) 経営上の問題点

経営上の問題点(1位グループ)で、回答が多かったものは1位が「需要の停滞」で、2位が同率で「利用者ニーズの変化」、「その他」となっている。(1位から3位グループ)では、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化」、3位が同率で。「店舗施設の狭隘・老朽化」、「その他」となっており、(1位グループ)と同様、新型コロナウイルス感染症の影響を受けて「需要の停滞」が1位となっている。

